

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体育) / 田中 弘之

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

- ① 授業内容:教育活動の基盤であり、従来、教科専門としての生理科学的視座による講義や演習を展開を企図してきたが、子どもたちの体力問題が重要な課題となっている現況に鑑み、体力医科学領域からの解析を主体とした教育実践学的方法へと一層の発展を志向する。
- ② 授業方法:最新のエビデンスが保証された論文等を引用して豊富な実証データを包含した視聴覚教材の作成を礎に、受講者に実践的課題を認識させ、その課題を克服するために有用となる運動処方の方策法等に関する演習形式の授業のより一層の充実を図り、自然科学的素養の深化に努める。
- ③ 成績評価:健康を科学的に分析する専門的知識の獲得とその実践的応用力に基づいた保健体育指導のあり方や運動処方の策定方法について考動する能力の修得を到達目標とした評価を実施する。

2. 点検・評価

- ① 授業内容:徳島県教育委員会子どもの体力・運動能力向上対策委員会委員長として全国調査データの解析を実施し、その最新の知見をも包含した体力医科学領域からの視座を主体とした講義・演習等、教育実践学に資する授業を展開することができた。
- ② 授業方法:上述のように最新データに依拠した解析結果を供覧し、課題解決のための方途について、演習形式の授業を積極的に導入し、教育実践学の深化を図ることができた。
- ③ 成績評価:保健体育科に関する専門的知識の獲得とその実践的応用力について、学修課題に到達させるために、毎時限、課題解決学習に資する命題を提示し、自学自習を促進させた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ① 長年、週2回の頻度で実施しているゼミ生に対するランチョンセミナーを当該年度も継続し、教科の専門性だけでなく、一般教養を高めるための就職支援対策としてより一層の充実の下に強力に推進する。
- ② ラグビーフットボール部、サッカー部、創作ダンス部の顧問教員として、課外活動の指導等にも一層の熱意を傾注し、多面的な方向性をもって、豊かな創造力を有する教員の養成に努める。

2. 点検・評価

- ① 教科の専門性だけでなく、一般教養や教職教養を高める就職支援対策としても展開しているランチョンセミナーは、例年通り、ゼミ生からの好評が得られており、来年度以降の継続を望む声も多く、教員採用試験等の結果にも鑑みて、概ね、所期の目標を達成することができた。
- ② ラグビーフットボール部、サッカー部、創作ダンス部の顧問教員として、課外活動の指導にも鋭意努め、ラグビーフットボール部は、例年通り、安定した成績をおさめ、創作ダンス部は、最後の創作舞踊公演で有終の美を飾ることができた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ① 学外者との共同研究をさらに推進し、自己の専門分野に留まらず、学際的な観点からも教育実践学の構築に努める。
- ② 教育・研究活動における成果の公表に努める。

2. 点検・評価

- ①② 徳島大学医学部及び工学部との共同研究は順調に進展しているが、研究費の獲得が厳しい現況にあって、産学官連携におけるさらなる資金獲得が課題となっている。他方、教育実践学に関する研究活動については、障がい者の身体活動及び学部の授業改善に資するための球技系教材開発に関する論文を発表することができた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ① 附属学校部長の職責を果たすとともに、各種委員会委員等として、大学運営の分掌に努める。
- ② 大学運営に関する問題点・発案等について、積極的に提言する。

2. 点検・評価

- ①② 附属学校部長として附属学校部会議，附属学校教育研究連携協議会，附属学校間連携会議，エコアクション21専門部会を統括するほか，総務委員会，教育研究評議会，人事委員会，人権教育推進委員会，附属学校運営委員会，予算・財務管理委員会，施設整備委員会，実地教育専門部会等において，大学運営に積極的に参画し責務の一端を果たした。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

- ① 附属学校部長として4附属学校園を掌理し，大学との連携による教育・研究のさらなる進展に努める。
- ② 教育支援講師・アドバイザーなどとして，積極的に学校現場，地域主催研修会等に出向き，指導・助言を行うよう努める。
- ③ 教育委員会等の学外における諸委員会の委員を積極的に引き受け，社会貢献に努める。

2. 点検・評価

- ① 附属学校部長として、週4回の附属学校部勤務を通して、4附属学校園と大学との連携による教育・研究の進展に努め、文部科学省研究開発学校、文部科学省特別経費プロジェクト「高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実－附属学校機能の強化－」等に関する成果の一助となる役割を果たすことができた。
- ② 教育支援講師・アドバイザーや、鳴門渦潮高等学校との高大連携、公益財団法人徳島県体育協会が刊行したガイドブックの出筆ならびに編集を担当したほか、同法人が主催するスポーツ科学セミナー講師も多数担当し、県内の各種競技団体の競技力向上に努めた。
- ③ 徳島県教育委員会子どもの体力向上対策委員会委員長として、「めざせ体力アップ！チャレンジ大会」「わんぱくランキング大会」等の運営にも協力したほか、徳島県体育協会理事・スポーツ科学委員会委員長等の立場からもスポーツ祭東京2013(東京国体)における徳島県総務委員として参画するなど、社会的貢献に努めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

特記なし